ポール・クルーグマン著、山形浩生訳「さっさと不況を終わらせろ」早川書房 2012 年 7 月 20 日刊を読む

道徳的な使命

１．というわけで、いまやぼくたちはアメリカ経済が景気後退に突入してから四年以上たっている――そして後退は終わっても、停滞は終わっていない。失業はアメリカでは少し下がり気味だが(でもヨーロッパでは上昇中だ)、しばらく前ならば考えられない水準にとどまっている。同胞市民たちが何千万人も、すさまじい苦労にさらされており、今日の若者たちの将来見通しは、月ごとに悪化している――そしてそのすべてが、起こる必要のないものなのだ。

２．というのも、この不況から脱出するための知識も道具も、ぼくたちにはあるのだ。実際、昔ながらの経済学の原理(それも近年の出来事で有効性が確認される一方の原理だ)を適用することで、急速に、おそらくは二年以下で、おおむね完全雇用に戻れるのだ。

３．回復を阻害しているのは、知的な明晰さと政治的な意志の欠如だけだ。そして、事態を変えられるあらゆる人――専門の経済学者から政治家、懸念する市民まで――は、その欠如を補うためにできる限りのことをすべきだ。この不況は終わらせられる――そしてそれを実現する政策を求めて戦うべきだ。それも今すぐに。

P293

［コメント］

クルーグマン先生の教えは日本にもそのままあてはまる。景気が回復しないのは、やるべきことがあまりにもやられていないことがすべての原因だ。

－ 2012 年 8 月 2 日林　明夫記－